

株主の皆さまへ

証券コード：9888

— 第55期中間報告書 —

2008年4月1日～2008年9月30日





前回（2008年6月）の「株主の皆さまへ」の中で、中進国・発展途上国の経済発展とともに、当社の主力製品であるステンレス鋼の需要も増加していくと申しました。一方で、株式・為替・金利の動向は不透明で、景気の先行きは予断を許さないと申しました。前者は言わば中長期的な視点に立っての事業環境の展望であったのに対し、後者は今年から来年にかけての経営環境を懸念したものでした。中長期的に見たステンレスの可能性についての展望・認識を変える必要はないと思いますが、当面問題としての懸念は予想以上の現実として表れてしまいました。米国で起きたサブプライムローン問題に端を発し、くすぶり続けていた金融不安は世界的な規模で表面化し、实体经济にも重大な悪影響が出てきています。IMFは、2009年度は戦後初めて日米欧の成長率がそろってマイナスになると予想し、世界経済全体の成長率でも3.0%から2.2%に下方修正しています。

このような環境の中、日本の鉄鋼各社は減産に踏み切り、鉄鋼生産に不可欠な鉄鉱石・スクラップなども急激に値を落としております。ステンレス鋼の生産に大量に使用されるニッケル価格は1年間で約1/4にまで下落し、ステンレス市況も低迷しています。私たちはまさに稀に見る劇的な変化の真只中に立たされています。

当社が属するステンレス鋼流通業界においても、ここ数年間の好況の中で棚上げにされてきた諸問題がここにきて噴出してきてくる可能性があります。当社はこのような逆境をむしろ前向きにとらえ、変化の時代はチャンスだと認識し他社との差別化を図って行きたいと思っております。4月に制定した「UEXの志」を実現するため、取引先から愛される人材の育成や変化の時代にあった事業スキームの構築などを研究し、景気回復まで全治数年と言われる時期をあせらず、たゆまず地道な努力を続けてまいります。今後とも株主の皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げる次第です。

2008年11月

代表取締役社長 押本 俊明

業績の推移

	04/9	05/9	06/9	07/9	08/9
連結売上高(百万円)*	23,155	23,753	27,740	37,576	31,380
連結四半期純利益(百万円)*	358	443	748	1,980	446
1株当たり四半期純利益(円)*	64.61	73.97	124.96	330.63	37.22
総資産(百万円)	30,988	32,500	35,473	50,546	40,551
純資産(百万円)	5,033	6,491	7,637	11,318	11,254

* 第2四半期累計の数値です。

当第2四半期（2008年4月1日～2008年9月30日）におけるわが国経済は、米国におけるサブプライムローン問題に端を発した金融市場の混乱が实体经济にも波及し、世界経済が急速に停滞感を強めるなか、企業収益の悪化による設備投資の減少、個人消費の停滞などにより、終盤になって景気の減速感が一層強まってまいりました。

このような状況のなか、当社企業集団の中核であるステンレス鋼その他金属材料の販売事業において、需要停滞に加えニッケル価格が下落したことによる先安感により買い控えが起こりました。このことにより、販売数量が前年同期と比べ9.5%減少、販売価格が前年同期と比べ8.2%下落し、連結売上高は前年同期と比べ16.5%減少の31,380百万円となりました。利益面では、販売価格の下落によって売上総利益率が前年同期と比べ4.9ポイント低下したことにより、連結営業利益が前年同期と比べ75.5%減少の840百万円、連結経常利益が前年同期と比べ78.4%減少の726百万円、連結四半期純利益が前年同期と比べ77.5%減少の446百万円となりました。

＜ステンレス鋼その他金属材料の販売事業＞

ステンレス鋼の販売数量が低水準で推移したことと、販売価格が下落したことにより、売上高は30,078百万円と前年同期と比べ16.6%減少しました。売上高の減少と売上総利益率の低下により営業利益は前年同期と比べ78.2%減少の735百万円となりました。

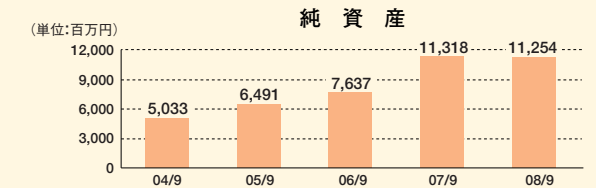
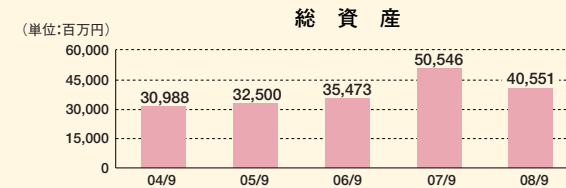
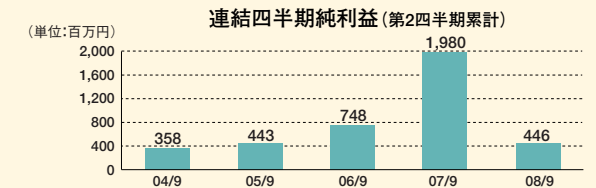
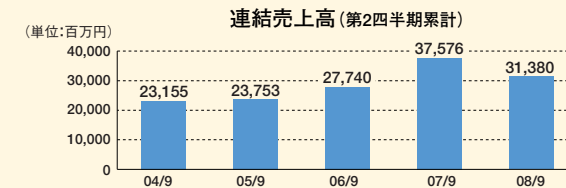
ものの、原材料価格の下落などにより製造原価が抑えられ営業利益は100万円の黒字となりました（前年同期は900万円の赤字）。

＜機械装置の製造・販売及びエンジニアリング事業＞

機械装置の製造・販売及びエンジニアリング事業においては、売上高は844百万円と前年同期と比べ3.9%減少しましたが、エンジニアリング事業における高採算物件の売上計上により営業利益は前年同期と比べ58.8%増加の70百万円となりました。

＜ステンレス鋼その他金属加工製品の製造・販売事業＞

株式会社ステイドが連結対象子会社から外れたことにより、売上高は459百万円と前年同期と比べ26.1%減少する



UEXの特徴

当社はステンレス鋼を扱う鉄鋼商社です。ステンレス鋼を専門に扱う商社や問屋は国内に200~300社あるとも言われていますが、売上高の規模から言って、当社はおよそトップ5社の中に位置しております。余談ですが、当社以外には上場している商社・問屋はなく、経営戦略や決算の内容など正式に開示されている情報がほとんどないのが現状です。

ステンレス鋼の国内での流通はこの何百社の商社や問屋がユーザーとメーカー双方のニーズを調整し、仲介することによって成り立っております。

当社を始めとする商社・問屋が扱うステンレス鋼は通常次の五つの商品に分類されます。

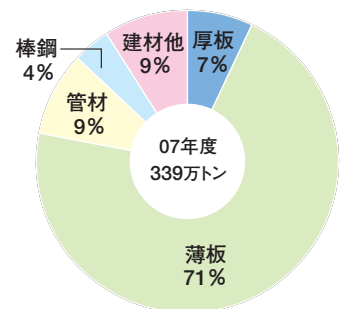
厚板：熱間圧延した厚さがおよそ4ミリ以上の板類。
薄板：冷間圧延で薄引き伸ばした板類。消費財として多く使われる。
鋼管：配送用または構造用のパイプ。製造方法により「継目無」と「溶接」の2種類がある。
棒鋼：丸棒またはバーなどとも呼ばれる棒状の物。
建材：建物や構造物など建築用の資材に使われる物。

日本に輸入されるステンレス鋼はまだ少なく(2007年度実績174千トン)、国内需要のほとんどは国内で生産され、賄われています。国内生産=約350万トンのステンレス鋼の品種別シェア(熱間圧延ベース)を見ますと薄板が約71%、管材が約9%、建材他が約9%、厚板が約7%、棒鋼が約4%となっており、圧倒的に薄板の生産が多くなっています(下の円グラフ(A)参照)。管材というのは継目無鋼管用の材料のことですが、一部の薄板からも溶接鋼管は製造されます。

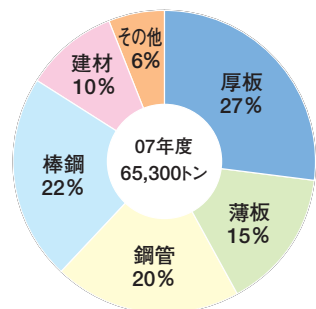
当社が扱う品種別のシェアを見てみましょう。下のグラフ(B)は当社が昨年度に販売したステンレス鋼の品種別数量を表しています。グラフ(C)は販売金額のシェアです。このよ

うに、当社はすべての商品を満遍なく平均して扱っているのが特徴です。特に、主に生産財として使用される厚板・棒鋼・管材などは生産量ではそれぞれ10%に満たないにもかかわらず、当社はこれら生産財を中心に扱っており、ステンレス商社の中で生産財に関してはトップのシェアを誇っております。

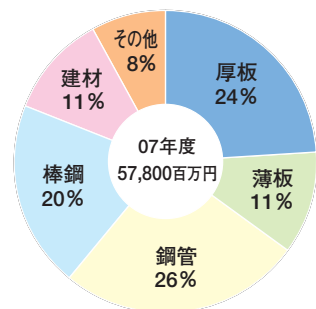
生産財は工場の新設・増設に伴う機械・設備の製作など設備投資用として主に使われる資材ですので、設備投資動向が当社の業績に少なからず影響を与えることとなります。一方、薄板が中心の消費財は自動車関連や住宅関連などに多く使用されます。当社以外の多くの大手ステンレス商社は薄板を中心に扱っているのが特徴です。



07年度 品種別生産数量(全国) グラフ(A)



07年度 当社扱品種別販売数量 グラフ(B)



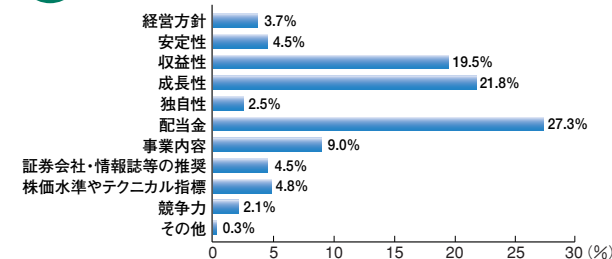
07年度 当社扱品種別販売金額 グラフ(C)

株主アンケート結果のご報告

「株主の皆さまへ 第54期報告書」で実施しましたアンケートには、約500名の株主の皆さまからご回答をいただきました。厚く御礼を申し上げますとともに、アンケート結果をご報告いたします。

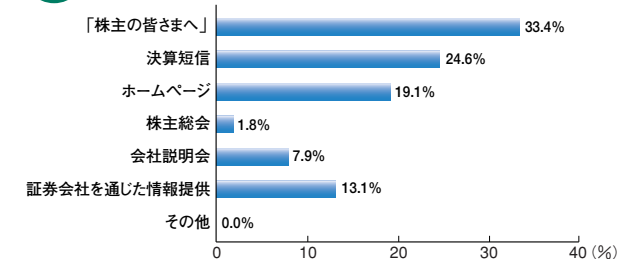
お寄せいただきましたご意見を参考に、株主の皆さまのご期待にお応えできるように今後一層努力してまいります。

Q1 当社株式を購入された理由は何ですか？



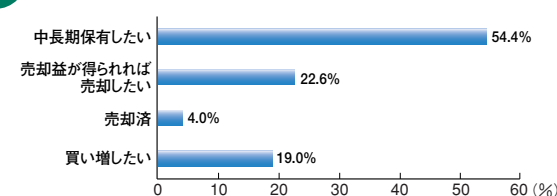
当社株式を購入された主な理由として「配当金」、続いて「成長性」「収益性」が挙がっています。

Q4 当社のIR活動として何を充実させてほしいですか？



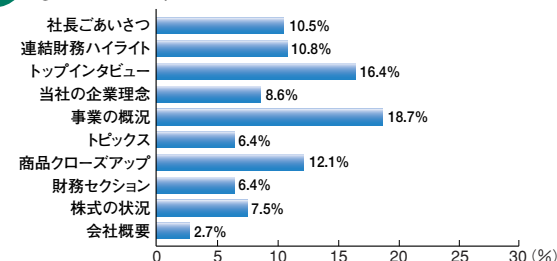
「株主の皆さまへ」や「決算短信」など紙媒体の情報提供の充実が、引き続き求められていることがわかります。

Q2 当社株式の今後の保有に関する方針をお聞かせください。



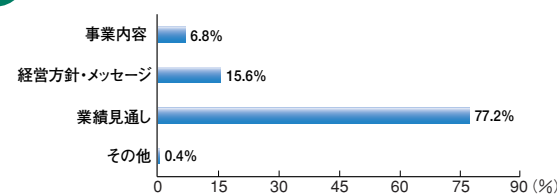
半数以上の方が中長期保有したいとお考えになっているようです。

Q5 今回の「株主の皆さまへ」の内容で興味をもたれたものはどれですか？



前回の「株主の皆さまへ」では「事業の概況」と「トップインタビュー」が多くの方に興味を持ってお読みいただきました。

Q3 今後、当社からの情報として何を知りたいですか？



将来の業績見直しに関する情報提供を望まれる株主が多いことがわかります。

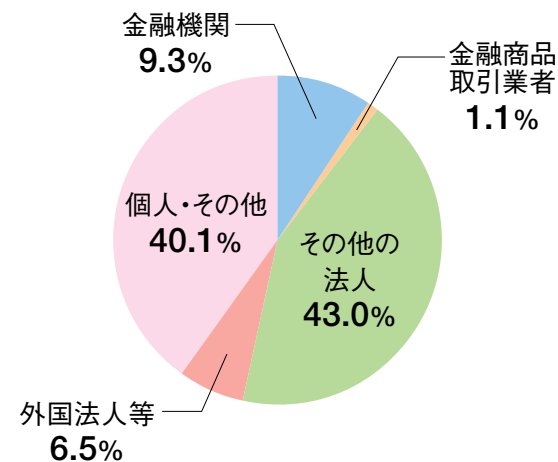


株式の状況 (2008年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 22,400,000株
- 発行済株式の総数 12,000,000株
- 株主数 3,236名
- 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
株式会社メタルワン	1,708千株	14.2%
住友商事株式会社	1,200千株	10.0%
新日鐵住金ステンレス株式会社	696千株	5.8%
株式会社みずほ銀行	548千株	4.6%
上野竹枝	393.1千株	3.3%
三井物産株式会社	368千株	3.1%
UEX社員持株会	363.3千株	3.0%

● 所有者別株式分布状況



会社概要 (2008年9月30日現在)

社名 株式会社UEX
 英文商号 UEX, LTD.
 設立 1955年1月14日
 代表者 押本 俊明
 資本金 15億1,215万円
 従業員数 327名 (2008年9月30日現在)
 主要販売先 (株)東芝 (株)IHI (株)荏原製作所
 新日本製鐵(株) 日本フイツシヤ(株)
 主要仕入先
 <メーカー> 新日鐵住金ステンレス(株) 新日本製鐵(株)
 住友金属工業(株) 大同特殊鋼(株)
 山陽特殊製鋼(株) 愛知製鋼(株)
 <商社> (株)メタルワン 住友商事(株) 三井物産スチール(株)
 NSステンレス(株) 伊藤忠丸紅鉄鋼(株)

本社 〒140-8630 東京都品川区東品川2-2-24
 天王洲セントラルタワー5F
 TEL 03(5460)6500 FAX 03(5460)6409

大阪支店・大阪配送センター
 九州支店・九州配送センター
 北陸支店・北陸配送センター
 東北支店・東北スチールサービスセンター
 名古屋営業所・名古屋配送センター
 関東営業所
 東海営業所
 三島スチールサービスセンター
 第一伊勢原スチールサービスセンター
 第二伊勢原スチールサービスセンター
 東京配送センター

役員 名誉会長 小田 保中
 代表取締役社長 押本 俊明
 常務取締役 岸本 則之
 常務取締役 本田 純一
 取締役 石松 陽一
 上席執行役員 一廣 長臣
 上席執行役員 岡崎 誠一郎
 執行役員 千葉 正夫
 執行役員 伊海 嘉一
 常勤監査役 藤井 誠
 常勤監査役 板倉 忠義
 社外監査役 小川 秀史郎
 社外監査役 松本 光史

クローズアップ

前回の「株主の皆様へ(第54期報告書)」の「トップインタビュー」でも掲載しましたが、本社玄関先で微笑む押本社長の写真を覚えていらっしゃいますか。これはその写真で社長の後ろにあった燕子花(かきつばた)ですが、当社の燕子花、実はチタンで作られています。

2008年4月に完成したこの燕子花チタン蒔絵パネルは、ニューヨークのメトロポリタン美術館所蔵の「尾形光琳作〜ハツ橋図屏風」をモチーフとしています。チタンと漆の相性が良いことから当社取扱商品でもあるチタンを使用し、約3ヶ月かけてこの燕子花チタン蒔絵パネルは完成しました。漆のもつ奥深さとチタンの上品な光沢で、神秘的な闇の中の燕子花を表現した図案となっています。

通常、蒔絵とは漆で画を描いたあと金粉や銀粉をその上に蒔き、さらに加工研磨する技法のことをいいますが、このチタン蒔絵では

銀粉を使わずに、3種類のチタン粉を使用し制作しています。漆で画を描き、チタン粉を蒔き、そのチタン粉の隙間を漆で埋め、さらにチタン粉を研ぎ出して磨き上げたものとなっています。

従来の蒔絵はデザインを考える時点で色や使う粉が決まり、計画的に重ねることによって蒔絵が完成するのですが、このチタン蒔絵は蒔絵した後にチタンの色を発色させ色合いをぼかしたり、境無く色を表現させる新しい漆蒔絵の技法を用いています。この技法によって描かれた当社の蒔絵は時間が経つにつれ完成時とは違った色味を帯び、味わい深い作品となっているのも特徴です。




株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
定時株主総会基準日	毎年3月31日
期末配当基準日	毎年3月31日
中間配当基準日	毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 お問い合わせ先 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
同公告掲載方法	東京都において発行する日本経済新聞 当社は、貸借対照表ならびに損益計算書を当社ホームページに掲載いたしております。 http://www.uex-ltd.co.jp/



UEX 検索 

<http://www.uex-ltd.co.jp/>

 株式会社 **UEX**

〒140-8630 東京都品川区東品川2-2-24

Tel.03-5460-6500 Fax.03-5460-6409